



2024年10月9日
日本貨物鉄道株式会社
NIPPON EXPRESS ホールディングス株式会社

JR貨物と日本通運、災害派遣医療チーム（DMAT）活動訓練における緊急車両の鉄道輸送を実施

日本貨物鉄道株式会社（社長：犬飼新 以下、JR貨物）とNIPPON EXPRESS ホールディングス株式会社（社長：堀切智）のグループ会社、日本通運株式会社（社長：竹添進二郎 以下、日本通運）は、9月27日と28日に実施された「令和6年度大規模地震時医療活動訓練」（主催：内閣府）において、兵庫県災害医療センターをはじめとする医療機関と連携し、DMAT*活動訓練で使用される緊急車両の鉄道輸送を行いました。

JR貨物と日本通運は、災害時指定公共機関として今回の訓練への協力を通じて得られた知見を活かし、今後とも関係機関と連携して災害医療を支援し、被災地と被災された皆様のお役に立てるよう努めてまいります。

*Disaster Medical Assistance Teamの頭文字を取って略したもので、大地震等の災害時に被災者の生命を守るため、被災地に迅速に駆けつけ、救急治療を行う、厚生労働省の認めた専門的な研修・訓練を受けた災害派遣医療チーム

1. 輸送概要

2024年9月27日および28日に関東圏で実施された「令和6年度大規模地震時医療活動訓練」において、兵庫県および大阪府の医療機関から神奈川県内の訓練箇所へDMATが派遣されるにあたり、緊急車両の輸送を貨物鉄道で行いました。

通常、被災地へ遠方のDMATが出動する際、緊急車両は医療関係者の運転により移動しますが、医療関係者の移動時間や労力の軽減を目的に、今回、幹線区間に貨物鉄道輸送を組み込むことを試験的に実施しました。

2. 実施日

2024年9月27日・28日

3. 鉄道輸送区間

発駅 百済貨物ターミナル駅（大阪市）・神戸貨物ターミナル駅（兵庫県神戸市）
着駅 相模貨物駅（神奈川県中郡大磯町）

4. 輸送コンテナ個数（輸送台数）

20ftコンテナ 6個（うち、オープントップコンテナ 3個）

5. その他

災害発生時に、災害医療の輸送手段に鉄道を活用する取り組みは、早稲田大学梅津光生名誉教授が中心となり活動している「Rail DiMeC研究会」において進められており、今回の訓練輸送も同研究会の協力・参加のうえ、行われました。

なお、Rail DiMeC 研究会が取り組む「鉄道の災害医療への活用（病院列車構想）」は、本年9月に発表された第23回「日本鉄道賞」の「日本鉄道賞表彰選考委員会による特別賞」を受賞しています。



(神戸貨物ターミナル駅での緊急車両のコンテナへの積み込み)



(相模貨物駅での緊急車両のコンテナからの取り出し)